かめおか
乳幼児教育
センター

7月21日（火）
「0歳児から5歳児　主体性を育む保育」
～架け橋期を視野に入れて～

講師　京都府幼児教育センター　架け橋期コーディネーター
大橋　美智子　先生





保育所保育指針・幼稚園教育要領
幼保連携型認定こども園保育教育要領が改定されます。
（2027年3月告示・2028年4月施行）

●多様な一人一人の「深い学び」を豊かなものに
●「好き」を育み「得意」を伸ばす
●遊びを通した学びをさらに重視
●一人一人の違い多様性への対応
●小学校との接続をさらに進める
●保育者の「子どもをみる力」が大切
●言葉を用いて思考を深めていく指導
●他者と関わり協同する力の育成
●遊びの中で直接的・具体的な体験を



●指示命令は言葉じゃない。言葉は豊かなもの。
●自分で考える、やれる環境、やってみたくなる環境をつくる。
●選びやすい、やった、できたがわかる、今日は今日であそびきったがわかる環境を。

●「自分の人生を舵取りする力の育成」は0歳児から。自分の人生は自分で歩く。
●0歳児の3つの視点+5領域が10の姿につながる。
●子どもたちは何を楽しんでいるか？何に心を奪われているか？子どもの輪の中に入って混ざってみて、子どもの目の先、手の先を見て、遊びの中の子どもの様子を見つける。その姿、遊びをさらに深めるために、保育者はねらい、願いを持つ。そこからがスタート。
●させなければならないのではない。子どもの興味関心をもとに、先生の願いの含まれた意図的な環境から選ぶのは子ども。
●保育者は遊びのきっかけの人になる。大好きな先生のすることは「やってみたい」を引き出す。
●「今」しかできないことを「今」楽しんでおこう。
●保育者同士が同僚性をもって、語り合える場をつくる。

●計画ありきじゃなく、子どもの姿から保育を振返り、そこから計画を立てる。子どもの姿スタートで考える。



【感想】
・言葉のかけ方を見直したい。
・一人一人の「好き」を見つけたい。
・子どもの姿を見とる力をつけたい。
・大人も「楽しまなくっちゃ」ですね。

★かめおか乳幼児教育センター　Tel:0771-21-2102　Mail：nyuuyouji@city.kameoka.lg.jp